

(タイトル)

絵本を読んで感じたこと

幼児教育学科に入学する際に、何に耳をこらそうかと考えたとき、絵本が浮かびました。幼稚園で先生が読んでくれて楽しかったことを思い出しました。幼稚園や保育園にとって大切なものの一つだと思いました。まず絵本を知ろうと思い、10冊の絵本を読んでみました。

〈読んだ絵本〉

「やまなしもぎ」「うまかたやまなし」「おおきなかぶ」「てぶくろ」

「はじめてのおつかい」「からすのペンキやさん」「あたしのワンピース」

「おんそのあた」「ちいさなふるいじどうしゃ」「びくびくビリー」

小さいときには読んでもらった「はじめてのおつかい」と「あたしのワンピース」は今読んでその世界に入ることができ、小さいころの小情景もうかんできました。

一冊の絵本が思い出につながることに気づきました。

子供たちに絵本を読んであげるという活動は、もと絵本を読んで絵本を知らないといけないうかもしれないと思いました。

ひらがなばかりで読みにくいということもあらためて感じました。

絵本がくついている世界を子どもたちにちゃんと伝える責任があると思います。これからもと勉強して、絵本についてよく知りたいと思いました。